

計算書における項目	記号	記号の説明
1.3使用材料・仕様及び許容応力度表（木材）	F c	基準圧縮強度
	F t	基準引張り強度
	F b	基準曲げ強度
	F s	基準せん断強度
	F c v	基準めり込み強度
	E b	ヤング係数
1.3使用材料・仕様及び許容応力度表（鉄筋・コンクリート）	r f c	鉄筋の許容圧縮応力度
	f c	ff
	f t	鉄筋の許容引張り応力度
	w f t	鉄筋の許容せん断応力度
	f s	コンクリートの許容せん断力応力度
	f a	コンクリートの許容付着応力度
1.4.3.積雪荷重	β	低減用屋根勾配
	μb	屋根形状係数
1.4.4.速度圧の計算	Z b	地表面粗度区分に応じて定められる数値
	ZG	地表面粗度区分に応じて定められる数値
	α	地表面粗度区分に応じて定められる数値
	V0	令87条2項及び建告1454号第2で定められる風速
	H	建物高さ（建物の高さとは軒高との平均）
	G f	が ス影響係数（地表面粗度区分に応じて定められる数値）
	H'	HとZ bを比べて高い方の数値
	E r	平均風速の高さ方向の分布を表す係数
	E	令87条2項及び告示第1454号第1に定める方法で算出する数値
	q	速度圧
	Kz	告示第1454号第3の2の表によって算出する値
	Z	当該階部分の地盤面からの高さ
	Cf	風力係数
1.4.5.地震力	H	建物高さ（建物の高さとは軒高との平均）
	Z	地震地域係数 建告1793号で定められた数値
	C0	標準せん断力係数 令88条第2項より0.2以上
	Rt	振動特性係数 建告1793号第2に定められている方法で算出する
	T	一次固有周期 木造の場合 $T=0.03 \times H$
2.耐力壁の設計		
2.1.鉛直軸力の算出	P0	個別荷重
	P	荷重合計

計算書における項目	記号	記号の説明
2.2.偏心率の計算	L_x 、 L_y	X, Y方向距離
	G_x 、 G_y	X, Y方向重心位置
	K_x 、 K_y	X, Y方向剛心位置
	e_y 、 e_x	X, Y方向偏心距離（重心と剛心のずれ）
	J_x	剛心Gを原点とする座標軸xに対する、水平剛性の2次モーメント
	J_y	剛心Gを原点とする座標軸yに対する、水平剛性の2次モーメント
	$J_x + J_y$	ねじり剛性
	r_{ex} 、 r_{ey}	弾力半径
	R_{ex} 、 R_{ey}	偏芯率
	a_i	壁倍率
	l_i	壁長さ
	W_i	通り重量
	L_{yi} 、 L_{xi}	通りの原点からの距離
2.3.水平力に対する耐力壁の算定		
2.3.1.建物荷重の算定	W_0	項目の荷重
	W_i	各階の重量
	ΣW_i	当該階が支えている部分の固定荷重と積載荷重の和
2.3.2.地震力の算定	Z	地震地域係数 建告1793号で定められた数値
	T	一次固有周期
	a_i	全重量に対する i 階より上の重量比
	A_i	i 階の地震層せん断力係数の分布係数
	C_i	i 階の地震層せん断力係数
	L_{e2}	（地震時必要）せん断力
2.3.3.風圧力の算定	q	速度圧
	L_{w2}	（風圧時必要）せん断力
	ΣC	風上+風下 風力係数の合計値
	A_w	各階見付け面積
	w_Q	各部分風圧力
	w_{Qi}	i 階に加わる風圧力合計
	Σw_{Qi}	当該方向に加わる風圧力総合計
	L_{w2}	（風圧時必要）せん断力
2.4.耐力壁の配置と有効壁長 L_d の算定	$a_i l_i$	壁倍率×壁長
	L_d	壁量
	P_i	（設計）せん断力
2.5.枠組壁工法技術基準告示 耐力壁算定に定める壁量の算定（告示第1540号）		
2.5.1.地震力に対する必要壁量の表		
2.5.2.風圧力に対する必要壁量の表		

計算書における項目	記号	記号の説明
2.5.3. L d / L n の比率の表	L d	設計壁量
	L n	必要壁量
2.6.必要壁量の算定	L e 1	(地震時) 仕様規定必要壁量
	L e 2	(地震時/88条) 必要壁量
	L w 1	(風圧時) 仕様規定必要壁量
	L w 2	(風圧時/87条) 必要壁量
3.各部の設計		
3.2.たて枠の設計		
3.2.1.たて枠の設計 (一覧)		
3.2.2.たて枠の設計 (個別)	L k	材長
	A	断面積
	Z	断面係数
	i	断面 2 次半径
	λ	細長比
	ω	座屈係数
	F c	基準圧縮強度
	F b	基準曲げ強度
	K z (曲げ)	断面低減係数 (曲げ)
	K z (圧縮)	断面低減係数 (圧縮)
	L	軸力負担長さ
	a	たて枠間隔
	l	壁長
	n1	端部たて枠本数
	N0,N1,N2,N3,N4	(鉛直荷重) 軸力
	M _s /b	壁の回転による端部軸力
	N _{s0} ,N _{s1} ,N _{s2}	(水平荷重) 軸力
	w1,w2	一般部、壁端部の負担風圧力
	n	釘本数
3.3.1.まぐさの設計 (一覧)		
3.3.2.まぐさの設計 (個別)	A	断面積
	Kz	寸法調整係数
	Z x	(強軸) 断面係数
	Z y	(弱軸) 断面係数
	I x	(強軸) 断面2次モーメント
	I y	(弱軸) 断面2次モーメント
	F b	基準曲げ強度
	F s	基準せん断強度
	E	ヤング係数
	ω	(水平構面) 荷重
	ωa	(勾配構面) 荷重

計算書における項目	記号	記号の説明
3.3.2.まぐさの設計（個別）	$\omega 1, 2$, (名称-名称)	まぐさ上部の壁重量
	$P1, P2, \dots$	まぐさの直行部材からの集中荷重
	f_b	許容曲げモーメント
	f_s	許容せん断力
	ω_b	壁荷重
	M_{max}	最大曲げモーメント
	Q_a	左端部せん断力
	Q_b	右端部せん断力
	Q_{max}	最大せん断力
	δ	たわみ量
	δ'	(G+Pe) 荷重時のたわみ (1/250以下)
	w	風圧力
	f_{bx}	(強軸) 許容曲げモーメント
	f_{by}	(弱軸) 許容曲げモーメント
	n	釘本数
	L_k	材長
	A	断面積
	Z	断面係数
	i	断面 2 次半径
	λ	細長比
	ω	座屈係数
	F_c	基準圧縮強度
	F_b	基準曲げ強度
	K_z (曲げ)	断面低減係数 (曲げ)
	K_z (圧縮)	断面低減係数 (圧縮)
3.4.柱の設計	N	鉛直軸力
	L_k	材長
	A	断面積
	F_c	基準圧縮強度
	K_z (圧縮)	断面低減係数 (圧縮)
	i_x	(X軸) 断面 2 次半径
	λ_x	(X軸) 細長比
	i_y	(Y軸) 断面 2 次半径
	λ_y	(Y軸) 細長比
	ω_x	(X軸) 座屈係数
	ω_y	(Y軸) 座屈係数
3.5.1.梁の設計（一覧）		
3.5.2.梁の設計（個別）	A	断面積
	K_z	寸法調整係数 (曲げ)
	K_s	寸法調整係数 (せん断)
	Z	断面係数
	I	断面 2 次モーメント

計算書における項目	記号	記号の説明
3.5.2.梁の設計（個別）	F b	基準曲げ強度
	F s	基準せん断強度
	E	ヤング係数
	ω	（水平構面）荷重
	ωa	（勾配構面）荷重
	f b	許容曲げ力
	f s	許容せん断力
	$\omega 1$ （名称～名称）	上部壁荷重
	Mmax	最大曲げモーメント
	Qa	左端部せん断力
	Qb	右端部せん断力
	Qmax	最大せん断力
	δ	たわみ量
	δ'	（G + P e）荷重時のたわみ（1/250以下）
3.7.接合部の設計	NL	長期鉛直軸力
	Ns	水平時軸力
	Ms/b	耐力壁の回転により発生する軸力
	N1,N2,N3,N4	算出軸力
3.8.基礎の設計		
3.8.1.べた基礎の算定	A	基礎版面積
	Σw	建物総重量
	WT	基礎立上り部重力
	WL	積載荷重（特殊荷重を考慮する場合）
	WS	スラブ重量
	w	建物単位重量
3.9.その他		
3.9.1.転倒の検討	Lx	X方向（転倒）長さ
	Ly	Y方向（転倒）長さ
	σs	（短期）地盤支持力
	h'	根入れ深さ
	Mk	（地震時）転倒モーメント
	Mw	（風圧時）転倒モーメント
	Mwx	（X方向/風圧時）転倒モーメント
	Mwy	（Y方向/風圧時）転倒モーメント
	Nf	基礎自重
	W	建物重量
	Mox	（X方向）安定モーメント
	Moy	（Y方向）安定モーメント
3.9.2.転倒の検討（引抜力の検討）（2階建ての場合）	W2	2階建物重量
	W1	1階建物重量
	Eq2	2階地震力

計算書における項目	記号	記号の説明
3.9.2.転倒の検討（引抜力の検討）	wQ2x	2階（X方向）風圧力
	wQ2y	2階（Y方向）風圧力
	h2	2階階高
	Eq1	1階地震力
	wQ1x	1階（X方向）風圧力
	wQ1y	1階（Y方向）風圧力
	h1	1階階高
	Mk2	2階（地震時）転倒モーメント
	Mk1	1階（地震時）転倒モーメント
	Mw2x	2階（X方向/風圧時）転倒モーメント
	Mw1x	1階（X方向/風圧時）転倒モーメント
	Mw2y	2階（Y方向/風圧時）転倒モーメント
	Mw1y	1階（Y方向/風圧時）転倒モーメント
	Tk2x	2階X方向/地震時浮き上り力
	Tk2y	2階Y方向/地震時浮き上り力
	Tk1x	1階X方向/地震時浮き上り力
	Tk1y	1階Y方向/地震時浮き上り力
	Tw2x	2階X方向/風圧時浮き上り力
	Tw2y	2階Y方向/風圧時浮き上り力
	Tw1x	1階X方向/風圧時浮き上り力
	Tw1y	1階Y方向/風圧時浮き上り力
3.9.3.層間変形角（令109条の2の2）	δ_i	変位
	γ_{si}	層間変形角の逆数
	Q_i	当該階（又は壁）に作用する水平力
	P_i	当該階の耐力壁の許容耐力
3.11.土台アンカーボルトの設計	L	土台材厚
	Fc	（土台）の基準圧縮強度
	d	アンカーボルト径
	F	鋼材の基準強度（アンカーボルト）
	C1,C2,C3,C	公式の係数
	q	アンカーボルトの基準せん断力
	Pa	アンカーボルトの許容せん断力